

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18320116
 研究課題名（和文） 中央ユーラシアにおけるイスラームの展開一初期の伝播から現在の『再生』まで一
 研究課題名（英文） Islam in Central Eurasia: from it's early transmission to the contemporary "revival"
 研究代表者
 濱田 正美（ hamada masami ）
 京都大学・大学院文学研究科・教授
 研究者番号：30109061

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中央ユーラシア：イスラーム：スーフィズム：教理要綱書・聖者伝

1. 研究計画の概要

本研究は、中央ユーラシアにおけるイスラームについて、その初期の伝播から現在の「再生」に至る全過程を包括的に検討し、以下の諸問題を解明することを目的とする。（1）イスラームの伝播-アラブ征服者と原住民の改宗（2）サーマーン朝における知的活動の急激な展開とそれを可能にした歴史社会的背景（3）テュルク系遊牧集団の改宗（4）マートゥリーディー派神学とハナフィー派法学の隆盛とテュルク系王朝の関わり（5）モンゴルの征服とイスラーム；スーフィズムの社会的上昇（6）ティムール朝以降の「正統教学」とスーフィズムの融合による中央ユーラシア的イスラームの成立（7）現代におけるイスラーム再生。

2. 研究の進捗状況

2008 年 2 月に刊行された『中央アジアのイスラーム』において、研究代表者濱田は上に列挙した諸問題を網羅的に取り扱い、研究期間前半における成果を公表した。とりわけ、上記の（4）以下の諸点については、マートゥリーディー派神学に関する文献、一般向け教理要綱書の写本、イスラーム聖者伝の写本に関する調査研究の進捗により、多大の新知見が既に獲得されている。一方、3 名の研究協力者久保は、ティムール朝の文人政治家ナヴァーイーの社会観とスーフィズム思想の影響関係についての分析を開始し、稲葉はイスラーム時代初期の中央アジア情勢について、国際的に高く評価されている成果を発表しつつあり、東長はスーフィズムの基本文献の紹介と分析を継続している。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）上記 2. 研究の進捗状況の項において既述したように、当初の研究計画全般に関する個別研究のみならずこれらを総合する網羅的著作を既に公表した。また、基本的史料の校訂テキストの公刊や訳注の出版の準備も目下進行中である。

4. 今後の研究の推進方策

研究期間の最終年度に当たる本年度は、中央ユーラシアで広く流布した一般向け教理要綱書の校訂テキストの校訂、翻訳を完成させ最終報告書の一部として公刊する。また 2010 年の 1 月もしくは 2 月に、中央ユーラシアのイスラーム思想の専門家数名を外国から招聘してワークショップを開催し、本研究の成果を公表するとともに彼らの研究をも併せて最終報告書を作成する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①濱田正美、『帰真総義』-中央アジアにおけるその源流、京都大学人文科学研究所編『中国宗教文献研究』447-458、2007、無

②濱田正美、北京第一歴史檔案館所蔵コーカンド関係文書 9 種、『西南アジア研究』68、82-111、2008、有

③久保一之、ナヴァーイー（ミール・アリーシール）の社会観-*Mahbūb al-qulūb* 第一章日本語訳（付．ローマ字転写校訂テキスト）-、『京都大学文学部研究紀要』47、183-295、2008、無

④東長靖、カラーバーズィー『タサウウフの徒の教えの解明』より第 32 章「タサウウフとは何か」解題・翻訳ならびに訳注、『イス

ラーム世界研究』2-1、250-256、2008、無
〔学会発表〕（計 2件）

①濱田正美、聖者の執り成し-死の『イスラーム化』か、イスラームの「土着化」か、東洋史研究大会、2008/11/3

②稲葉穰、Nezak in Chinese Sources?

学会名 Iranian Huns and Western

Turks: Archaeology-History-Art

History-Numismatics、2008/11/18、

Kusthistorisches Museum, Vienna, Austria

〔図書〕（計 2件）

①濱田正美、『東トルキスタン・チャガタイ語聖者伝の研究』京都大学大学院文学研究科、2006

②濱田正美、『中央アジアのイスラーム』山川出版社、2008